

地球の  
「いきいき」の  
ために

# 環境目標の達成状況

ISO14001に基いて環境目標を定め、全社で環境活動に取り組んでいます。

## 2013年度のISO14001環境活動結果

### ● 2013年度 ISO14001環境目標の達成状況



…目標を達成できました



…目標を達成できませんでした

項目、具体的指標	目標 → 結果	取り組み・達成状況
生産部門CO <sub>2</sub> 削減 焼酎換算商品1klあたりのCO <sub>2</sub> 排出量(2010年度比)	5.4%増加 ⇒ 14.9%増加 	アルコールの蒸留や製品、生産設備の殺菌などに使う蒸気を作るため重油やガスを使用します。また、容器への製品充填などの生産工程では電気も使用します。2013年度はガスボイラーの導入など、CO <sub>2</sub> 削減に努めましたが、購入電力のCO <sub>2</sub> 換算係数が大幅に悪化したため、目標を達成できませんでした。
物流部門CO <sub>2</sub> 削減 焼酎換算商品1klあたりのCO <sub>2</sub> 排出量(2010年度比)	4.5%増加 ⇒ 4.5%増加 	省エネ運転やコンテナ輸送時のフェリーの利用などのモーダルシフト <sup>*</sup> 、消費地から近い工場での生産を推進し、物流に伴うCO <sub>2</sub> 削減に取り組んでいます。2013年度は、西日本の工場から東日本への製品の出荷が増えましたが、製品のフェリー輸送を開始するなど、従来の取り組みを維持・強化することにより目標を達成できました。
生産部門用水削減 焼酎換算商品1klあたりの 用水使用量(2010年度比)	9.4増加 ⇒ 16.9%増加 	お酒の原料として水を使用するほか、生産工程(装置や容器の洗浄及びアルコール蒸留や商品の冷却など)でも水を使います。生産工程での水の再利用や節水により用水の削減に取り組んでいます。2013年度は、用水使用量の多い商品の生産数量が想定以上に増えたため、目標を達成できませんでした。
工場廃棄物排出量の削減 焼酎換算商品1klあたりの 廃棄物排出量(2010年度比)	11.3%削減 ⇒ 2.7%削減 	排水汚泥やびん、缶などの空き容器の削減を中心に工場廃棄物排出量の削減に取り組んでいます。2013年度は、缶、びんなどの資材廃棄ロス削減の取り組みや、2012年に更新した汚泥処理設備が順調に稼働し、排水汚泥の発生量が減少したこともあり、廃棄物の総排出量は前年より削減できましたが、原単位では目標を達成できませんでした。
事務所電気使用量削減 事務所の電気使用量 (2010年度比)	20.0%削減 ⇒ 19.1%削減 	事務所内の必要以上に明るい場所の蛍光灯の間引きや昼休み時間の消灯、クールビズの実施による空調の適温調整などにより事務所内の電気使用量の削減に取り組んでいます。2013年度は、猛暑の影響などによりわずかに目標を達成できませんでした。
コピー用紙使用枚数削減 コピー用紙使用枚数 (2010年度比)	12.5%削減 ⇒ 14.0%削減 	IT機器の導入による会議資料の電子化や両面・縮小印刷などによるコピー用紙使用枚数の削減を進めています。2013年度は、これらの取り組みにより目標を達成できました。
食品系副産物等の有効利用 食品系副産物等の有効利用率	97%以上 ⇒ 97.9% 	お酒やみりんの製造過程では、“酒粕”や“みりん粕”といった食品系副産物が発生します。これら食品系副産物を捨てるのではなく、可能な限り有効利用できるよう取り組み、2013年度は、目標を達成できました。
環境社会貢献活動の推進 環境社会貢献活動の実施・参加・ 協力件数	85件 ⇒ 92件 	自社で企画したボランティア活動や外部からのボランティアへの参加、環境に関わる社会貢献活動への協力に取り組んでいます。2013年度は、ロハスフェスタなどイベントでの環境NPOとの協力の増加などにより目標を達成できました。
エコ提案の推進 エコ提案採用件数	200件 ⇒ 203件 	環境への取り組みは社員一人一人の環境意識を高めることも重要と考えています。社内での提案制度を通して社員の声を拾い、小さなことからでも取り組んでいます。2013年度も、節電や廃棄物削減、コピー用紙削減などにつながる様々な提案が採用されました。
環境配慮型商品の販売促進 「はかり売り」実施店 新規開拓店舗数	10店舗以上 ⇒ 12店舗 	「はかり売り」実施店舗を増やすことで新たなペットボトル容器を使用せずに焼酎を販売でき、資源の節約のほかCO <sub>2</sub> の削減にも貢献できます。2013年度は新たに12の販売店で焼酎の「はかり売り」を開始していただき、目標を達成できました。
営業車のエコカー導入の推進 営業車のH22燃費基準 +25%達成車 導入率	73%以上 ⇒ 79% 	営業部門での環境負荷の低減を図るため、セールス活動に使用する自動車について、数年前から燃費の良いエコカーの導入を推進しています。2013年度も引き続き、エコカーやハイブリッド車への入れ替えを進め、目標を達成できました。

<sup>\*</sup>モーダルシフト：トラックから環境負荷の小さい鉄道・海運利用へと貨物輸送を転換することをいいます。

## ISO14001に基づく全社での活動

### 3年ごとにグループ目標を見直し

TaKaRaグループ\*では、1999年からISO14001環境マネジメントシステムを導入し、商品の開発から原材料の調達、商品の生産、販売、物流に至るまでのすべての段階で環境目標を設定して環境負荷の削減に取り組んでいます。

グループで取り組む環境目標は、3年ごとに見直ししており、2011年から2013年の3年間は、深刻化する気候変動の問題や廃棄物の問題に対応するため、CO<sub>2</sub>排出量削減や廃棄物排出量の削減につながる問題を中心に取り組みます。

※ISO14001:2004におけるTaKaRaグループは、宝ホールディングス、宝酒造、トータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステムで構成されています。

### 2013年度環境目標の達成度

ISO14001の活動目標の11項目のうち、2013年度は7項目で目標を達成しました。特に、「環境社会貢献活動の推進」、「コピー用紙削減」「エコカー導入推進」の3項目については、新たな環境イベントへ出展、資料・データの電子化の推進、ハイブリットカーの導入により目標を達成できました。一方で、「生産部門CO<sub>2</sub>削減」、「生産部門用水削減」「工場廃棄物排出量の削減」、「事務所電気使用量削減」、4項目については、購入電力のCO<sub>2</sub>換算係数の悪化や生産数量の増加、気候条件の影響などにより目標を達成できませんでした。

 8:ISO14001活動結果詳細

 9:工場副産・廃棄物の用途

 10:工場別サイトレポート

### 環境会計

宝酒造の環境コストでは、蒸気配管の保安など省エネ対策としての「地球環境保全コスト」、環境マネジメントシステムの運用や活動推進のための「管理活動コスト」、また公害防止コストの割合が高くなっています。そのほかにも、宝酒造「田んぼの学校」などの環境教育や地球温暖化防止に貢献

するNPO支援などにあてた社会活動コスト、資源循環コストなどがあります。

2013年度は、排水処理設備更新などによる「公害防止コスト」やはかり売り用タンク購入などによる「環境保全コスト」が増加しました。

分類		主な取り組みの内容	投資	費用
(1)主たる事業活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)			119,145	571,914
内訳	①公害防止コスト	排水処理設備更新、ボイラー設備メンテナンス、賦課金など	48,420	347,462
	②地球環境保全コスト	蒸気配管の保温、排熱回収設備、冷蔵、冷凍設備の更新など	63,225	77,370
	③資源循環コスト	飼料化設備、廃棄物リサイクル設備の整備など	7,500	147,082
(2)主たる事業活動に伴ってその上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(上・下流コスト)		はかり売り用タンク購入、再商品化委託費用、リターナブルびんシステム維持など	23,018	201,730
管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)		環境マネジメントシステムの整備・運用、環境設備の運用など	4,668	341,307
研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)		製品等の製造段階における環境負荷の抑制のための研究開発	0	0
社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)		環境教育イベント実施、環境NPO支援など	0	22,626
環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)		産業廃棄物適正処理推進基金	0	36
合計			146,831	1,137,613

(集計範囲:宝酒造単体、2013年度対象期間:2013年4月1日~2014年3月31日、単位:千円)